

鋳型模型専用乾燥機 X - 5 F D

取扱説明書

ご使用前に必ずお読みください。

この度は、鋳型模型専用乾燥機 X - 5 F Dをお買い上げ頂き、誠にありがとうございます。
型式が、ご注文された製品に相違ないかをご確認の上、保証書と合わせて大切に保管してください。

(1) 据え付け

- 1 -1 水平の状態にしてご使用ください。
- 1 -2 周囲温度は -15 ~ +40 、相対湿度は40 において80%以下の範囲で使用してください。
- 1 -3 据え付けは風雨にさらされない場所、屋内、通風の良い場所を選んでください。密閉した場所では使用できません。
- 1 -4 熱風発生機の周辺には可燃物を置かないでください。
- 1 -5 電源は必ず専用回路をご使用ください。電源容量(NFB)は250 A以上のものをご使用ください。
- 1 -6 長い配管、細い配管、吐出口をノズル状に加工し断面積の少ない物等は風量が減少して乾燥効率が悪くなりますので、充分に注意して配管をおこなってください。

(2) 運転前の確認

- 2 -1 本機の吸入側ダンパが、『開』になっているか確認ください。
- 2 -2 本機の吐出口ダンパが、『開』になっているか確認ください。
- 2 -3 工場電源にそのまま接続してください。本体に漏電ブレーカが搭載されていますので、新たに漏電ブレーカを取り付ける必要はありません。

(3) 運転

- 3 -1 本体のメインブレーカをONにしてください。この時、ヒータ電源ランプが点灯します。
- 3 -2 次に本体盤内のブロワブレーカ、操作回路ブレーカをONにしてください。この時、ブロワ電源ランプが点灯し、同時に電源ランプが点灯します。電源ランプの点灯が緑ならば、送風機の回転方向が順相(このまま運転できます)、赤ならば逆相です。赤色に点灯した場合は、電源コードの内2線を入れ替えて、再度上記動作をおこなってください(本体盤内のブロワブレーカ、操作回路ブレーカは常時ON状態でも問題はありません)。
- 3 -3 温度調節計を任意の温度に設定してください(別紙1参照)。
- 3 -4 必要に応じて、タイマを設定してください(別紙2参照)。
- 3 -5 タイマ運転をされない場合は、運転スイッチを送風にしてください。この時、送風ランプが点灯します。また、同時に送風量不足ランプが点灯しますが、送風機の回転が上がると消灯します。
- 3 -6 運転スイッチを熱風にしてください。ヒータランプが点灯し、昇温が開始され、所定の温度で制御されます。また、運転スイッチを送風の位置で止めずに、そのまま熱風の位置にされても問題はありません。
- 3 -7 タイマ運転の場合は運転スイッチを時間がたてば運転か、時間がたてば停止の位置にしてください。同時に昇温が開始され所定の温度で制御されます。

(4) 終了

4 -1 運転スイッチをOFFにしてください。特に冷却運転をする必要はありません。

本機は一方通行専用機ですので送風量全開にて最高温度は出ません。カタログの性能曲線を参照の上、ダンパで風量を調節しながら、目標温度に到達させてください(風量全開で無負荷時の到達温度は約120 度です)。

(5) 異常

5 -1 異常ランプ

本機が温度異常・送風機異常・オーバーヒートの場合に点灯します。同時に温度異常・送風機異常・オーバーヒートのいずれかの異常ランプが点灯しますので、原因を取り除いてください。

5 -2 温度異常ランプ

吐出温度が高温の場合に点灯し、ヒータ回路はOFFになり送風運転になります。原因を取り除くと自動復帰します。

5 -3 送風機異常ランプ

送風機が過負荷の時に点灯して自動停止します。危険信号ですので直ちに原因を調べてください。原因を取り除くと自動復帰します。

(主な原因：送風機のオーバーロード 吐出側配管の圧力損失が過大)

5 -4 オーバーヒートランプ

ヒーターケース内が異常高温になった場合、点灯しヒータ回路はOFFになり、送風運転になります。危険信号ですので直ちに原因を調べてください。原因を取り除いた後、メインブレーカを一度OFFにし、再投入してください。

(主な原因：風量不足、配管等による過大な圧力損失など)

5 -5 送風量不足ランプ

送風量が不足した場合に点灯し、ヒータ回路はOFFになり送風運転になります。原因を取り除くと自動復帰します。

(主な原因：ダンパの全閉、配管等による過大な圧力損失、フィルタの詰まりなど)

(6) 手入れ

6 -1 定期的にフィルタの点検、清掃をしてください。

6 -2 本機の上部にたまった埃等は定期的に掃除してください。



タケツナ

株式会社 竹綱製作所

本 社

〒577-8566

大阪府東大阪市高井田西5丁目4番18号

TEL: (06)6785-6001(代)

FAX: (06)6785-6002

東京支社

〒144-0035

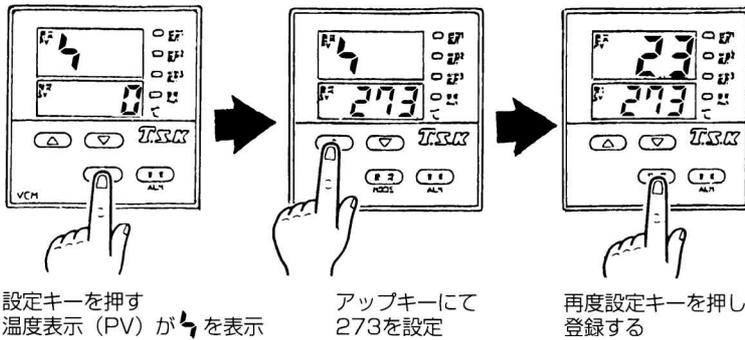
東京都大田区南蒲田2丁目4番4号

TEL: (03)5710-2001(代)

FAX: (03)5710-2005

U R L <http://www.taketsuna.co.jp/>

温度調節計(TIC)操作方法



設定キーを押す
温度表示 (PV) が ⚡ を表示

アップキーにて
27.3を設定

再度設定キーを押し
登録する

※温度警報を使用する場合は警報キーを押しアップダウンキーで吐出設定温度に対する上下限警報値(0~100)を入力してください。
(例) 温度設定27.3℃に対して上下限警報値20入力なら29.3℃以上、25.3℃以下で警報出力が出来ます。

設定後約30秒経過すると設定値は自動的に登録され、温度表示に切り換ります。

警報は上下限偏差(下限待機付)警報です。

< 自動出力温度調節計(72) >

設定温度75 の場合 設定(MODE)キーを1回押す。この時温度(PV)表示が S を表示。
アップキー、ダウンキーにて“75”に設定。 再度設定キーを1回押し登録する。

75 ± 20 にて温度警報を出したい場合(95 以上55 以下、ただし安定してから) 警報(ALM)キーを1回押す。この時温度表示が 0 を表示。 アップキー、ダウンキーにて “20” 吐出温度に対する偏差にて設定。 再度警報キーを1回押し登録する。

この時、警報は本体裏パネル端子N0(ノーマルオープン)の端子で取り出せますのでご利用ください(212 - 213)。

連続運転

運転スイッチを送風の位置にすると、送風を開始します(この時ヒータには通電されていません)。

送風ランプ点灯。

次に運転スイッチを熱風の位置にすると、ヒータに通電され熱風が吐出し、設定温度になるまで昇温し、設定温度になれば制御を開始します。 ヒータランプ点灯。

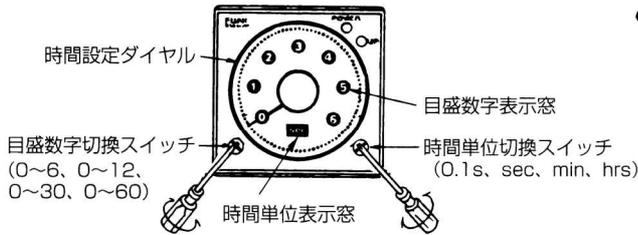
連続運転の場合には、運転スイッチを一度送風の位置にせず、直接熱風の位置にして運転を開始しても問題はありません。

タイマ操作方法

タイマ運転をおこなう場合は、タイマ設定をおこなってください。

例：【6時間に設定する場合】

タイマのレンジをドライバ等で回して変更してください。



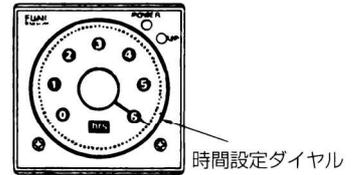
※秒単位の設定はおこなわないでください。

6時間設定の場合

- 時間単位切換スイッチにて時間単位をhrsに合わせてください。
- 目盛数字切換スイッチにて目盛数字範囲を6に合わせてください。



時間設定ダイヤルを回して6時間に設定してください。

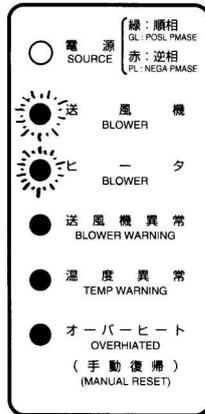
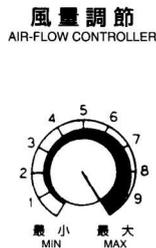
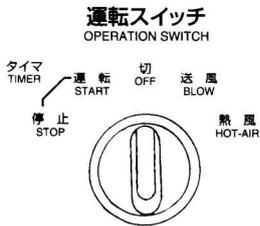


※時間設定ダイヤルの指示針は時間が経過しても、設定された時間を示したままです。

運転開始

《連続運転》

運転スイッチを『熱風』の位置にしてください。送風機ランプとヒータランプが点灯し、熱風運転を開始します。

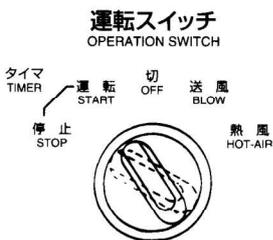


『送風』の位置ではヒータに通電されず、送風運転のみです。

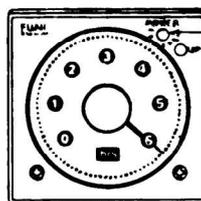
《タイマ運転をする場合》

運転スイッチを『タイマ運転』または『タイマ停止』に選択してください。設定されたタイマ時間より運転を停止、または開始します。

- ・タイマ運転中にタイマ時間を変更する場合は運転スイッチを一度『切』にして時間を変更し、再度『タイマ運転』または、『タイマ停止』にしてください。



タイマ



POWERランプが点滅し、タイムカウントを開始します。